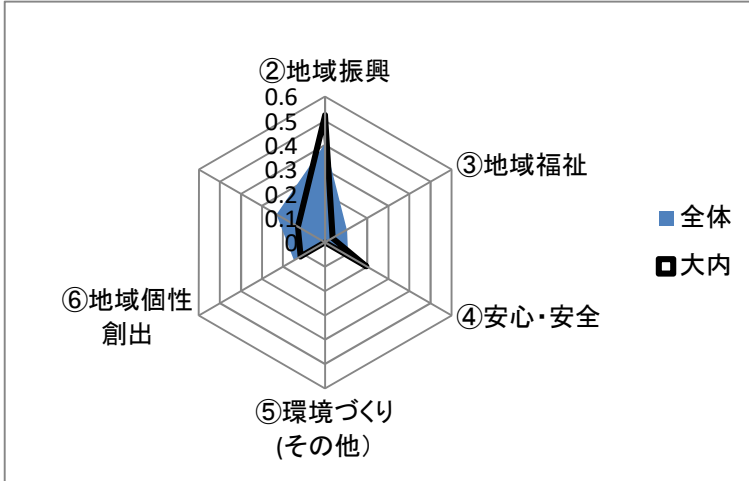


大内まちづくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和4年度)

■地域の情報

地域人口	22,762人	自治会数	31
世帯数	9,766世帯	自治会加入率	76.3%

※数値は、令和5年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	16,128,000 円
交付金決算額	15,566,467 円
その他収入	1,024,091 円
交付金決算額／配分額	96.5%

各分野の決算

①協議会運営	4,863,616 円
②地域振興	3,995,600 円
③地域福祉	270,708 円
④安心・安全	1,495,517 円
⑤環境づくり(土木工事)	4,093,000 円
⑤環境づくり(その他)	885,125 円
⑥地域個性創出	986,992 円
決算総額	16,590,558 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

元気！ 笑顔！ とともに支え合う大内

■総括

令和3年度から、第3期大内まちづくり計画に則って活動を進めており、特に、各種の地域課題をみんなで解決していこうとする姿勢「ともに支え合う」を意識して、いろいろな事業を展開してきた。残念ながら、コロナ感染症の収束が見えず、中止せざるを得ない事業もあったが、大内まつりや新たな取り組みとしておうち産業フェアなど、各関係団体と連携を取りながら、地域住民がともに支え合い、活力ある地域づくりを進めている。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長給与、事務局員給与、事務費等
② 地域振興	大内地区広報誌等印刷事業、大内まちづくり協議会情報共有、大内の四季風景カレンダー作成、大内地区じんけん学習まちづくり大会、大内まつり、大内子ども未来プロジェクト、大内地域アーカイブス(仮称)の構築、地域産業振興事業
③ 地域福祉	老人大学講座、活動量に着目した地域型健康づくり、実践ウォーキング、ふまねっと運動導入、子育て支援講座、心と体の健康づくりみんなで語ろう、健康促進スポーツ大会
④ 安心・安全	自主防災組織の設立、災害対策の充実、巡回パトロール、大内っ子まもり隊活動の推進、反射鏡設置補助、交通安全教室の開催
⑤ 環境づくり	法定外公共物等整備、交通安全環境施設設置整備、河川環境美化活動助成金交付、里山河川ふれあい補助、不法投棄防止運動
⑥ 地域個性創出	大内コードモジカン、標語ポスターの作成、標語看板の作成、三世代交流事業、食農教育、大内ごみゼロプロジェクト、大内史跡探訪会、地域協育ネット支援、教育講演支援、学校環境整備支援、夏のフェスティバル、大内南小30周年記念事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	大内子ども未来プロジェクト	決算額	32,143円
	目的	大内地域の課題を子ども目線で検討する会議を行い、提案する。		
	実施内容	小・中学生及び高校生が集まり、子ども目線で地域課題について考える熟議に取り組む。意見を集約し、その具体的な方策について話し合い、地域への提言書を作成する。		
	実施時期	令和5年1月29日、令和5年3月5日		
	参加人数	1回目35人の児童生徒、2回目32人の児童生徒		
	成果	小・中・高の児童生徒が子ども目線で地域課題を考え、提案することができた。		
	評価	中学生や高校生が、子ども目線で課題をとらえ、素晴らしい企画書の作成ができた。		
	今後に向けて	地域課題について、継続的に子ども目線で検討していきたい。		
②	事業名	地域産業振興事業	決算額	358,929円
	目的	地域の企業や団体が事業の紹介や販売、体験を通して地域住民と交流するおまつり		
	実施内容	地域振興部会と大内商工業振興会が共同で出店企業や団体を募り、おおうち産業フェア実行委員会を立ち上げ、おおうち産業フェアを実施。		
	実施時期	令和4年11月27日		
	参加人数	15の企業や団体、来場者約600人		
	成果	コロナ感染症対策をしっかりと行い、第1回目のおおうち産業フェアを実施できた。		
	評価	地域の企業、団体の活動の紹介や地域住民との交流の場になった。		
	今後に向けて	秋のおおうち産業フェアを、これから地域の交流の場として定着させたい。		
③	事業名	大内地域アーカイブス(仮称)の構築	決算額	273,860円
	目的	大内公民館50年史の続編、「大内の今」～大内21世紀の21年～の冊子作成。		
	実施内容	地域振興部会と公募した住民5名を含めて編集委員会を立ち上げ、全7回の編集会議で平成11年以降の大内地域の記録冊子を作成。		
	実施時期	令和4年4月～令和5年3月		
	参加人数	編集委員会9人(地域振興部会4人、一般公募5人)、地域住民対象		
	成果	平成11年以降の大内地域の歩みの記録史ができた。1000部作成。HPIにも掲載。		
	評価	大内地域内外の多くの人に大内の歩みを伝えていくことができる。		
	今後に向けて	作成した冊子を活用し、地域学習やキャリア教育等への活用を検討する。		